

## 課題(1) 思春期の保健対策の強化と健康教育の推進

### 〔課題〕

小学校高学年から中学、高校に至る思春期の人々(子供たち)の身体と心の急激な成長発達に伴う種々な問題を、医学・保健・教育の3つの立場から立体的・総合的に検討し、その具体的な改善のために効果的な連携・協力態勢を作るには如何にすべきかを分析し、それを実現するよう努力する、それがこの部門に与えられた課題である。

### 〔保健・医学啓蒙体制の問題点〕

その年代の子供たちへの指導・啓蒙の基本が家庭であることは説明するまでもないが、実際問題として、その年齢の生活は学校生活にかなり比重がかかっており、学校中心の教育・ケアが思春期問題の重要な鍵を握っていると言える。ところが、学校では知識・文化の伝達に重点が置かれ、子供たちが一見元気潑刺としていることもあって、生き物としての成長発達にまつわる保健的ケアは成り行き任せで、比較的楽観視され、あまり重視されていない

しかし、思春期は“生き物としての人間”が成熟する人生の最も重要な時期といってよく、適切な、かつ強力な指導が強く求められている所である。

ところが、現場の子供の身体・心に関する保健指導態勢は必ずしも十分といえない。その上、それをサポートすべき医学との連携が極めて乏しく、現実の学校医に、それらの問題に関係深い小児科、さらには産婦人科医・泌尿器科医が参加している例は極めて少ない。“生き物・人間”として著しく変貌を遂げる人生の重大な時期の保健学的対応としては甚だ問題であり、学校を取り巻く、保健医学指導態勢の充実が強く望まれるところである。

### 〔身体的な問題点〕

このプロジェクトとして思春期保健の問題点として上げられているテーマは、大別すると2つに分類される。

#### (A) 身体の成熟・性成熟にまつわる課題

1. 性成熟現象への対応(月経、夢精、マスターベーションなど)
2. 性行動開始による問題(a. 性感染症罹患、b. 望まざる妊娠)

#### (B) 心の成熟・社会的生活適応にまつわる課題

1. 精神的発達障害(自閉症、やせ症、登校拒否、自殺など)
2. 生活行動に関する問題(薬物、飲酒、喫煙)

これらの諸問題にどのように対応・改善していくかの議論を各関連分野の専門家の共同検討の中で立体的に行うことが、前項に述べた欠陥を補う今回のプロジェクトの利点である。ただ、上記(A)(B)はかなり密接な重複した問題を持っているものの、かなり専門分野的に離れている面が強いので、我々幹事会は、まず(A)課題、次に(B)課題に重点

をおいた検討を行い、その後、総合的に(A)(B)を含めて、厚生労働省・文部科学省などの行政を含めた、より広範な立場よりの議論も加味して問題点改善の道を検討していくことにしている。

そして(A)と(B)の課題では検討すべき組織が一部異なるので、(A)(B)と課題別にその検討サブグループを組織し、それぞれ検討を行っていく。

### 〔2001～2002年度の検討：性成熟関連課題〕

性成熟関連の基本的中心課題としては、やはり性教育をどのように行い、よりスムーズに思春期に起こる性成熟現象を子供たちが正しく理解し、個々に正しく対応できるようにするかということである。これには、家庭での強力な教育・指導が強く望まれる所であるが、わが国の家庭環境からは実際問題として、その具体的な実施は困難なことが多く、殆ど学校教育の現場に委ねられていると言える。

#### 1.〔その学校教育における性教育の現場に利用可能な指導指針的教本の作成〕

一番問題となると考えられるのは、医学的立場からのわかり易く、かつ具体的な指導に役立つ参考書がない。男女別にまとめた性成熟現象の解説と問題指導指針が教育現場から強く求められている所である。この点に関しては、すでに男女両サイドそれぞれの指導指針的教本の作成に取り掛かっている。

#### 2.〔性行動の活発化による思春期年代の性感染症罹患率上昇と人工妊娠中絶率上昇〕

この点に関しては、参考(図1)に示す如く、高校時代に性経験が急上昇し、それに並行して性感染症罹患率(図2)や人工妊娠中絶率(図3～4)が急上昇していることが明らかになっている。この予防啓発を如何にすべきか、ことにその予防啓発の基本である正しいコンドーム使用啓発教育を、中学校学習指導要領(文部省平成10年)には指示されているものの、いつから、どのように実際の指導するかの検討が強く求められている。その点に焦点を合わせて、2001年度、2002年度の本プロジェクト公開講座でまとめた論議を行っていくことにしている。

# 図1 高校生性経験率

(北海道調査:2,000～2001年度)

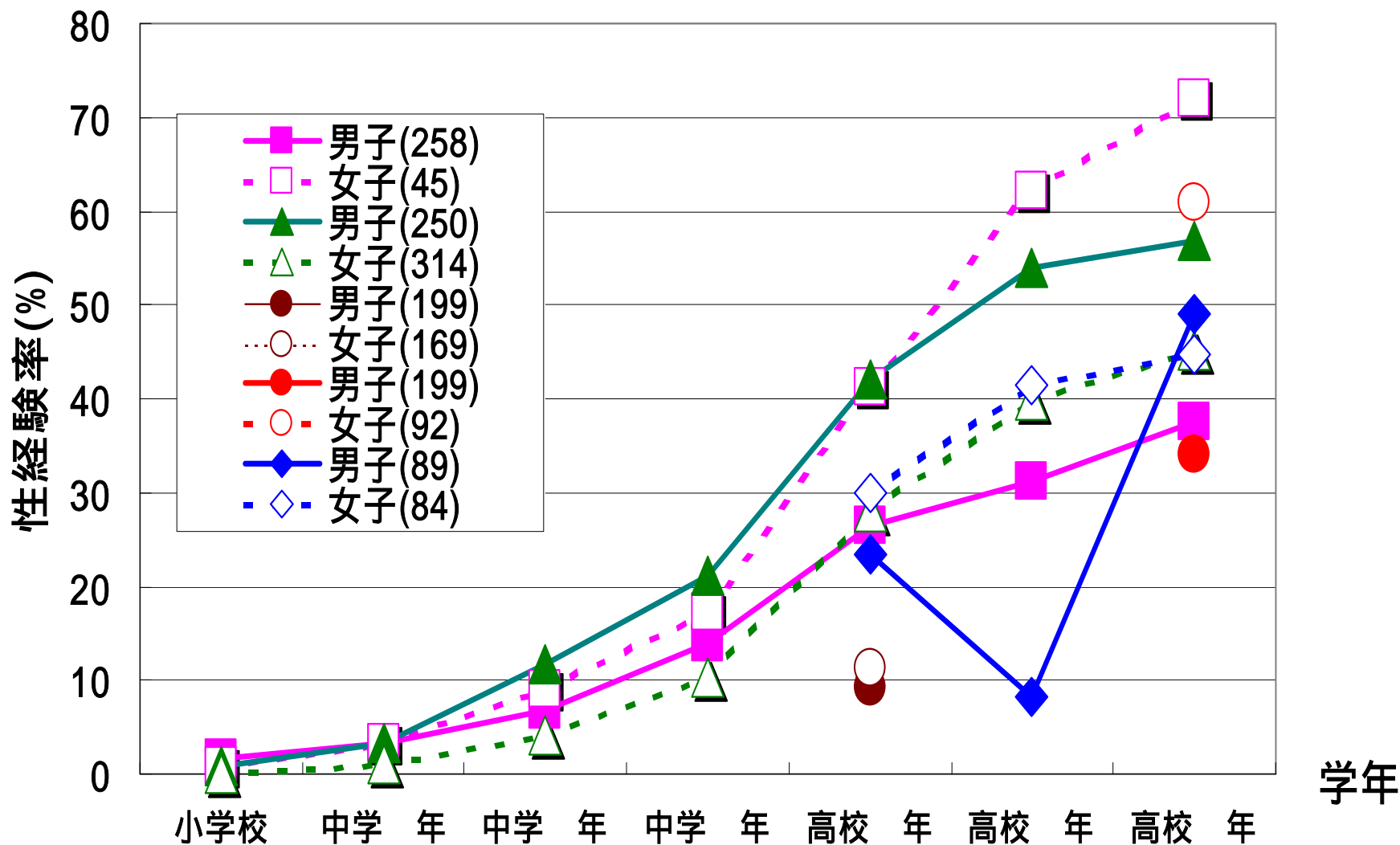
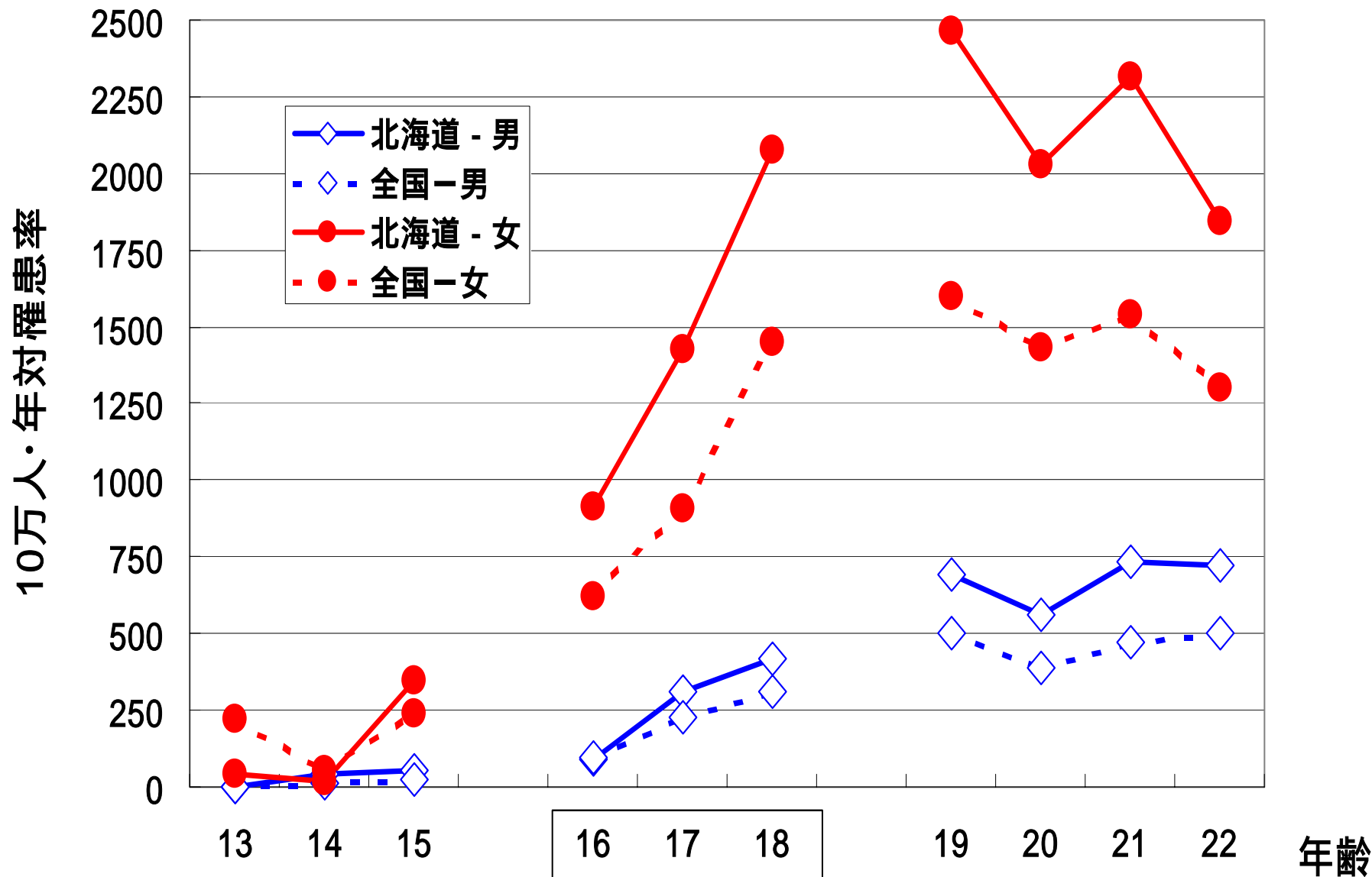
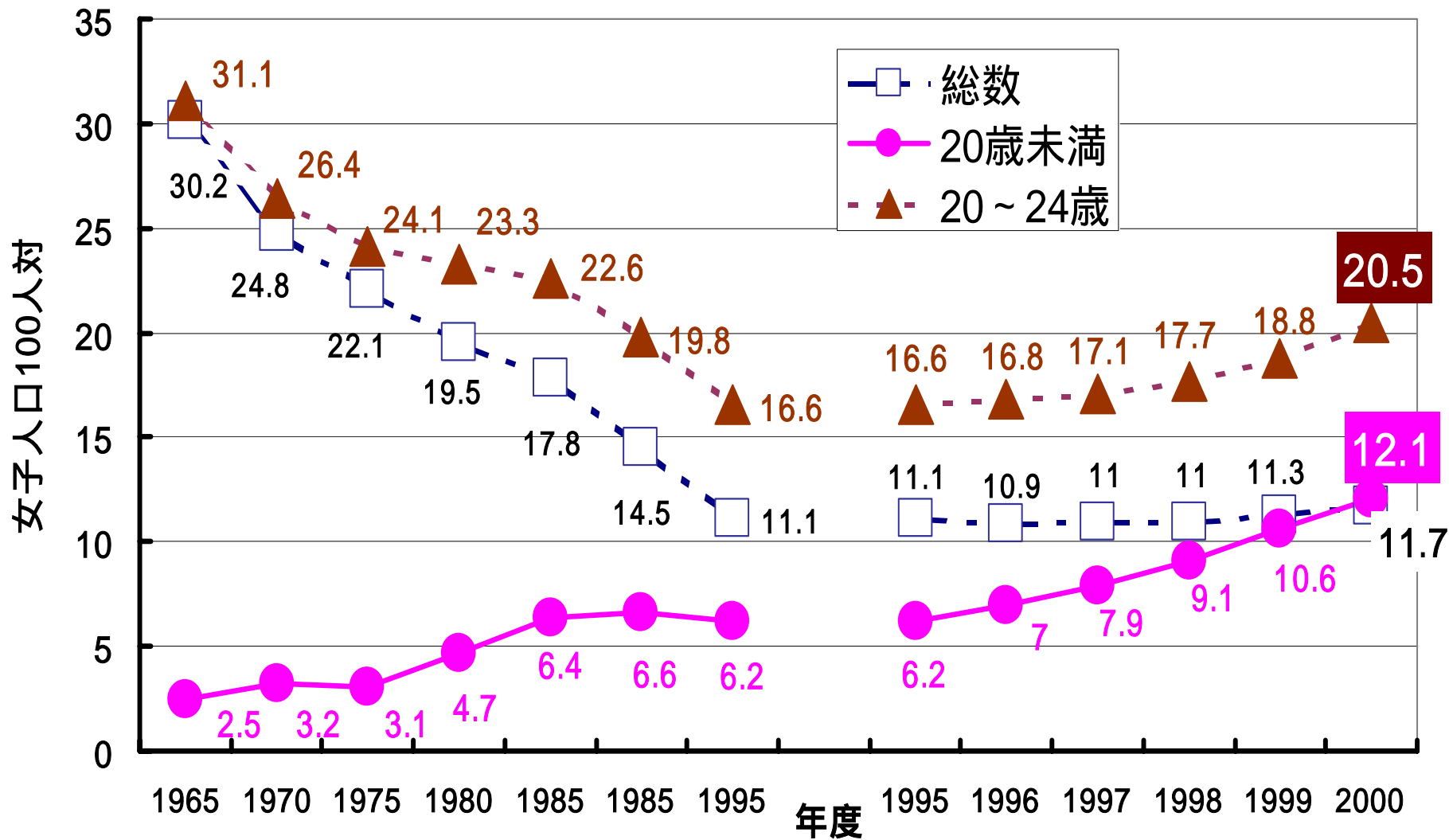


図2

中学・高校・大学学生の性器クラミジア年齢別有症状罹患率



# 図3 人工妊娠中絶率年次推移(全国統計)

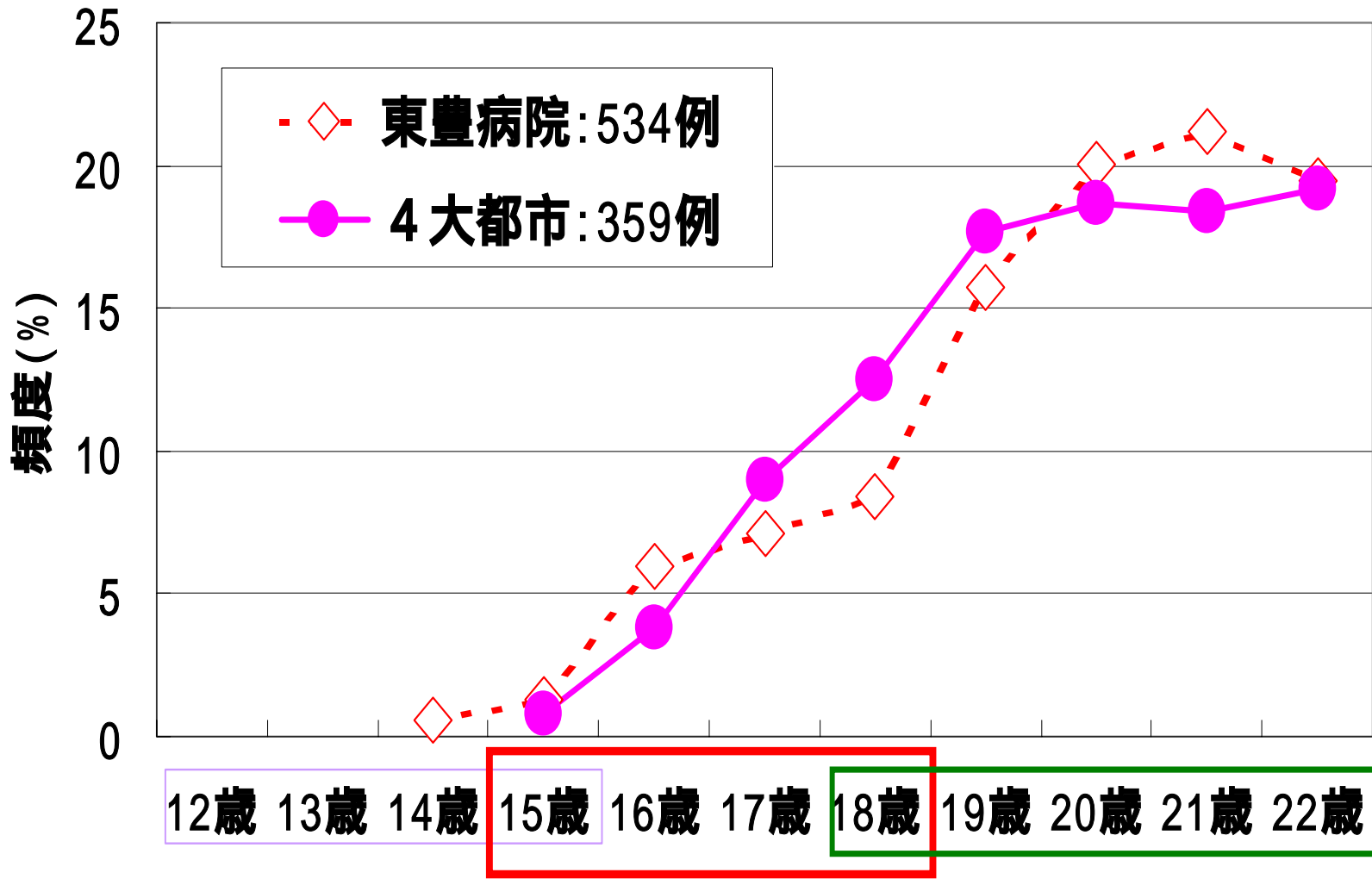


# 図4

## 中学・高校・大学時代の人工妊娠中絶頻度

(東豊病院) : 2000 ~ 2002/Oct .

札幌など4大都市 : 2002/Apr .



年齢